

なるだ・かみこうちいせき
なるだ・すわのわきいせき

成田・上耕地遺跡第1地点
成田・諏訪脇遺跡第1地点

(小田原市No.273遺跡)

調査期間

20060104～20060331
20061201～20070115
20070501～20070713
20080917～20090115

所在地

小田原市成田字スワノ
脇
小田原市成田字上耕地

時代

弥生
古墳
奈良・平安
近世



作成日:20091201

概要

調査は、神奈川県小田原土木事務所による都市計画道路
穴部国府津線街路事業に伴う事前の発掘調査です。

No.273 遺跡は小田原市成田字上耕地 248-3 外に所在し、J
R東海道線鴨宮駅の北方約 1.7km の地点にあたります。小
田原市域のほぼ中央部を流れる酒匂川左岸に広がる低地
の遺跡です。調査地点の北東には、低位台地が南北に大き
く広がっており、台地は小さな二つの谷によって隔てられて
います。それぞれの台地には長塚遺跡、千代遺跡、高田遺
跡が所在して、奈良時代に創建されたと考えられている千
代廃寺に代表されるように古墳時代及び奈良・平安時代な
ど各時代にわたる著名な遺跡が所在しています。また現地
名に残る「高田」は、天平七年(735)の正倉院文書「相模國封
戸租交易帳」に記載された「足下郡高田郷」、承平年間(931
～938)に編纂された「和名類聚抄」記載の「足下郡高田」に
それぞれ該当すると考えられ、古い地名の一つです。

No.273 遺跡の調査成果を簡略に概観すると、No.273 遺跡で
は 2005 年度以来の調査で古墳時代前期の方形周溝墓と思
われる溝と、古墳時代末葉～奈良時代初頭の竪穴建物跡、
古墳時代後期～奈良時代の掘立柱建物跡の柱穴、古墳時



▲ 2005 年度 第1号竪穴建物



代後期以降の溝・竪穴状遺構が発見されました。

2008年度の調査では2007年度調査区で確認された遺構の南側への広がりを捉えることができました。古墳時代後期～奈良時代の竪穴建物跡群についてはさらに南側にかけて広がっていることが確認されました。成田地区の調査は限られた調査範囲の中でのものですが、遺構の分布を見ると2005・2006年度調査区東側から2007年度調査区西側の範囲にかけて集中する傾向を示しており、2008年度の調査区が竪穴建物跡群分布のおおよその限界と考えられます。溝については今回の調査で更に南側に規模が広がる状況が追認され、また第45号溝では杭列・杭集中部などの施設を検出することが出来ました。この溝の帰属時期については出土遺物にほぼ準ずると思われます。その性格については西側の集落と東側に広がる低湿地を隔てるような位置関係にあることから、おそらく区画溝としての機能を有していたと思われますが杭列などの出土遺物を見ると本溝の様相がさらに多機能を持ったものと伺える結果となりました。他の遺構や新たに検出された遺構も含めて、今後は本報告書においてさらに検討を深めていきたいと考えています。現在は、調査成果をまとめるために出土品整理室作業を行っています。

▲ 2006年度 器台出土状況



▲ 2007年度 調査区から箱根連山を望む



▲ 2008年度 第18号竪穴建物調査風景



▲ 2008年度 調査区西側完掘状況